

シニアオケ 楽しく奏で25年

最後の「ジャーン」が合えばいい♪

湘南リラフィルハーモニー管弦楽団

団員同士で競わない。一般公開の発表会はやらない。でも奏でる曲は本物。50歳以上大歓迎——。こんなコンセプトを掲げる藤沢市のアマチュアオーケストラ「湘南リラフィルハーモニー管弦楽団」が創立25周年を迎えた。

21日には記念行事があり、半分は、1998年に「湘南ヤマハ年かけて練習してきたチャイコフフィル」として設立された。音フスキーの「悲愴」全楽章を45分に分けて演奏した。44人の団員はお互いをたたえ合った。プロ楽団「湘南エールアンサンブル」が運営するリラフィル



①中島良能さん指揮のもと、創立25年を迎えた「湘南リラフィルハーモニー管弦楽団」
②創立25年の記念行事でスピーチする鈴木朝子さん(右)。高校生までバイオリンを習い、湘南リラフィルで再開した＝藤沢市の藤沢リラホール



平均70代 競わず・発表会なし

中島さんが提案したのが「シニアのためのオケ」というコンセプトだった。一般的には、アマオケでも年齢制限や入団オーディションがある。定年後に楽器を始めたり、長いブランクがあったりといった人にはハードルが高かった。

「健康で長生きする人が増えて、第二の人生の充実が言われているのにおかしい」と中島さんは思った。そもそも、当時のシニア世代は、戦後の貧しい時代に生まれて、楽器を弾く余裕のない人が多かった。それでも、娯楽が乏しい青少年期にクラシックの名曲を聴きこみ、「いつか自分も演奏する側に」という憧れは強い。

そう思うのは、中島さん自身がそうだったからだ。子どものころにバイオリンを習い、中学校ではブラスバンドでトランペットも吹いたが、学費の高い音大には行けなかった。

大学卒業後、日本IBMに入り、子会社の役員まで務めたが、53歳で早期退職。一念発起して桐朋学園大の指揮教室で学び、渡欧してルーマニアの国立管弦楽団で首席客演指揮者になった経歴の持ち主だ。

耳は肥えているが、手は動かない。そういう人たちの「居場所」を作り、技術でなく音楽そのものを追求しよう。経験不問、オーディションなしをうた